

廃棄物問題の先進地、 NAGOYAで送る研究生活

Ísis Amorim de
Oliveira さん



社会環境学専攻 環境法政論講座 博士後期課程

Ísis Amorim de Oliveira さん 国籍/ブラジル

Ísis Amorim de Oliveiraさんの研究テーマは「廃棄物と水の管理」。子どもの時から、人々がまだ使えるものを捨てたり、道路や公園にごみを投げ捨ててしまうことに、いつも驚いていたと言います。人々が自分の捨てたごみがどうなるのか、その行動が都市の環境、人々の健康や自然環境にどんな影響をもたらすか気にも留めないことに当惑し、資源管理の問題に関わりたと思うようになりました。

リサイクルに関して高い評価を受けている日本。日本への留学を考えていたOliveiraさんは、日本における廃棄物管理の事例を探る中で「名古屋市の廃棄物革命」に出会います。「名古屋の話は日本国外ではあまり知られていません。私はもっと調べるために名古屋の大学への留学を希望しました。でも文部科学省の奨学金を得る候補者がどの大学に行くか、最終決定するのは文科省なので、名古屋大学に決まった時はとても幸せでした」。

現在は博士後期課程に在籍し、「水管理」も研究テーマに加えています。「地球上のすべての水のうち、たった2.5%が淡水で、そのうち容易にアクセス可能なのは0.3%程度です¹。重要な水でも十分にならなければ、我々はどのようにして70億人を超えて増え続ける人々の基本的ニーズを満たせばよいでしょうか。こうした問には魅力を感じずにはい

られません」。その重要性和緊急性はOliveiraさんの研究心をさらに掻き立てています。

「未来を環境にやさしいものにすることに貢献したい」と語るOliveiraさん。学業を終えた後の様々なキャリアの可能性を描きつつ、今は、名古屋での充実した学生生活を楽しみながら、研究を続けています。

¹ Igor A. Shiklomanov, "World Fresh Water Resources" in *Water in Crisis: A Guide to the World's Fresh Water Resources*, ed. Peter H. Gleick (New York: Oxford University Press, 1993), 13.



編集後記●

地域振興や環境管理の分野でも「共創」という言葉をよく耳にするようになりました。その意図するところについては既に様々なところで解説がなされています。しかし、何から始めればいいのか、誰がどのような役割をすればいいのか、取り組みの結果何が変わったのか、今後の課題は何かといった点については、あまり知られていないように思います。そこで、「持続的発展を共創する」というテーマで、本研究科の取り組みのごく一部を紹介させていただくことになりました。本号の情報が「共創」に取り組む契機になれば、大変幸いです。(白川博章)

環

KWAN

名古屋大学大学院
環境学研究科

Vol.34 2018年3月

【環・34号 広報委員会】

白川 博章(環34号編集委員長)

堀 和明(広報委員長)

諸田 智克

中川 書子

小松 尚

河村 則行

西澤 泰彦

編集/編集企画室 群

デザイン/オフィスYR